

【南九州税理士会会長賞】

税金とは人々の優しさの貯金

八代市立第四中学校

三年 藤井 琉聖

私はこれまで四度入院、そのうち二度の手術を経験しました。入院や手術になると高額になるのではないかと両親に金銭的にも負担をかけているのではないかと気になっていました。今回、税について調べるとその際に「子供医療費助成制度」という制度があり、この制度は入院、手術の他にも風邪をひいたり怪我をして病院を受診する場合や歯医者での検診、治療を受ける場合にもこの制度を利用できるということが母に聞き分かりました。

これまで僕は体調が悪ければ気軽に病院を受診していましたが、これは大人が支払った税金によって世の中の子供たちが助けられていることに気付きました。近年では新型コロナウイルスの影響により、生活困難者が増加傾向にあるとニュースで耳にする事が多かったですように思います。その為、病院を受診するにはお金がかかるという理由で、具合が悪くても我慢する人もいると思います。そのような大変な思いをされている中でも税金を納め、その税金の一部が私たち子供が健康に過ごせる為にも使われているということを知り、あまりにも無知で平和に暮らしていた自分が情けなく感じました。

今回、自分の経験から少しですが、税について知るきっかけになりました。今、自分が使っている教科書や用具なども税金によって支給されています。税金によって病院を無料で受診することができ、学校で充実した授業を受ける事ができているということは、私たち子供にとって税金は無関係なものではない。税金とはどんなお金だろう？と考えた時に僕がたどりついたのは「人々の優しさの貯金」によって支えられているということです。だから感謝の気持ちを持って大切に使用しなければいけない。お金は使えばなくなるけど、ありがたいの気持ちを持って使えば感謝が残る。

今の自分にできることは、税金を身近なもの意識することで、使っている教科書や学校の物を大切にするなどして今以上に感謝の気持ちを示していきたいです。税金について批判的な意見もあるが、このように間接的に援助できる点も税金の素晴らしさだと私は思います。税金のありがたさや大切さをよく理解し知識を得ることによって、納税することの重要性について微力ながら発信していける大人になりたいと思います。